

## 第5学年 音楽科学習指導案

平成28年12月15日(木)第6校時

文京区立駕籠町小学校

第5学年2組 24名

学級担任 荒木 悠介

指導者 金田 美奈子

### 1 題材名「インターロッキングの音楽をつくろう」

### 2 題材の目標

リズムのかみ合わせさを感じ取りながら、音楽を聴いたり音楽づくりをしたりする。

指導事項<学習指導要領の第5学年及び第6学年の内容より>

#### 「A表現」(3)

イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。

#### 「B鑑賞」(2)

イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。

ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。

〔共通事項〕ア (ア)リズム (イ)反復 音楽の縦と横の関係

### 3 児童の実態と題材設定の理由

第5学年の児童は、音楽の学習に意欲的な児童が多く、特に音楽づくりで友達とアイデアを出し合ったり友達の作品を聴いてそのよさについて批評し合ったりする活動を好んでいる。2学期は日本の音楽と世界の音楽についての学習の中で、音楽づくりの活動として学校のよさや季節、行事などを歌詞にした「かごまちぶし」づくりをした。ここでは、拍のない自由なリズムの旋律とともに、第4学年で学習した「合いの手」を入れたりフレーズの終わりの歌詞をくり返して歌ったりするなど、オリジナルの「合いの手」を工夫して取り入れて作品づくりをしていた。また、世界の音楽を鑑賞する学習では、「ホーミー」「ヨーデル」「ブルガリアの合唱」の声を実際に出して、それぞれの声の出し方の特徴を経験したり「フォルクローレ」の音楽をリコーダーで二重奏したりした。この学習でインターロッキングの音楽のひとつである「ガムラン」を聴いた初発の感想は、「催眠術のような感じ、森で迷子になったみたい、きみように胸がざわつく感じ、くり返しがある、最初が時計みたい、太鼓がずっと鳴っている、不思議なリズム、ぐるぐる回っている、途中で音が入れ替わる」といったものであった。このことから、児童は曲を聴く時に曲の中に音楽の流れの法則があることに漠然と気づきながら聴いていることが分かる。

そこで、今回の題材では、児童の音楽観の拡大を図るために、リズムをかみ合わせてできている音楽をつくる活動を設定する。この中で、簡単なリズムをずらしたり組み合わせたり重ねたりすることで全く違う音楽ができることや、友達と何度もかみ合わせて演奏している時に生まれる心の動きを経験させたいと考え、本題材を設定した。

#### 4 教材と使用音源

「クラッピングミュージック」(ライヒ作曲)

ミニマル・ミュージックの巨匠スティーヴ・ライヒ (Steve Reich) によって 1972 年に作曲された手拍子のみで音楽を奏でる作品である。この曲は二人の奏者で演奏され、八分音符 12 拍のリズムパターンを 6 回ずつ反復して演奏する。この中で、ひとりが同じパターンのリズムを繰り返して打ち、もうひとりがそのパターンを八分音符ひとつずつずらして打っていくという仕組みで構成されている。そのことによって生まれる休符が様々な部分で揃うことや 12 拍が休符なしに続くことによる様相の変化を、能動的な聴取により味わうことができる。

「ケチャ」

1930 年代、インドネシアのバリ島に在住していたドイツ人画家ワルター・シュピーツが、「サンギャン」という儀式的ななかにあった男声合唱を取り入れて観光用の芸能にすることを提案し、できたものである。その後、「ラーマーヤナ物語」と結び付いて、今のような形につくりかえられた。男声合唱は、「声のガムラン」とも呼ばれており、人間の声のリズムの楽器の役割を担当し、複雑なリズムのかみ合わせによる重なりを生み出している。この男声合唱は、物語の背景となる深い森の雰囲気を表したり、猿の大群の役割を演じたりしながら物語の全体を進行させていく。

「RYTHMES AFRICAINS (アフリカのリズム)」より「Le Grand Sorcier」

アフリカ民族音楽の根幹であるリズムのヴァリエーションを紹介している CD 中にある第 4 曲である。太鼓のリズムパターンにかみ合わせるように即興的に音高が異なる打楽器の音が入る曲である。

#### 5 題材の評価規準

	音楽への関心 ・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
題材 の 評 価 規 準	①音楽の縦と横の関係に関心を持ち、リズムを重ねた演奏を聴いたり実際に演奏したりする活動にすすんで取り組もうとしている。	①リズムの重なりや音楽の縦と横の関係、反復を知覚・感受している。 ②どのような作品にするかについて自分の考えや願い、意図を持ち、リズムの組合せをいろいろと試している。	①リズムの組合せを生かして、音楽をつくっている。

6 題材の学習指導計画（全4時間）

時	○主な学習内容 ・主な学習活動	☆教師の支援 ◆評価（評価方法）
<p>&lt;ねらい&gt;リズムの反復やリズムの組合せによる重なりを知覚・感受する。</p>		
1	<p>○リズム、音楽の縦と横の関係の知覚・感受</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターロッキングで構成されている音楽を聴き、重なり方の特徴について気付いたことをまとめる。</li> <li>①ずれる、重なる「クラッピングミュージック」</li> <li>②かみ合う、重なる「ケチャ」</li> <li>③入れ込む、重なる「アフリカのリズム」</li> </ul>	<p>☆ずれたりかみ合ったりしている雰囲気を感じ取ることができるように、手拍子をしたり体を動かしたりする活動を設定する。</p> <p>◆音楽の縦と横の関係に関心を持ち、リズムを重ねた演奏を聴いたり実際に演奏したりする活動にすすんで取り組もうとしている。 【関一①】（行動観察）</p>
<p>&lt;ねらい&gt;リズムの反復やリズムの組合せを工夫して音楽づくりをする。</p>		
2	<p>○基本のリズムづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8拍による自分のリズムをつくる。</li> <li>・かみ合わせのリズムをつくる。</li> <li>・ずらしたり重ねたりして、友達と演奏する。</li> </ul> <p>○インターロッキングの音楽づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに、様々な様式でインターロッキングの音楽をつくる。</li> <li>①リズムをずらす。</li> <li>②リズムをかみ合わせる。</li> <li>・手拍子で演奏し、グループ内で聴き合う。</li> <li>・木琴で演奏し、グループ内で聴き合う。</li> </ul>	<p>☆かみ合わせのリズムを知覚・感受することができるようにするために、個人がつくったリズムを電子黒板に提示し、全体で2つのグループに分かれて体験する活動を設定する。</p> <p>☆自分のリズムを友達と一緒に演奏することで、音楽の縦と横の関係について気付くことができるようにする。</p> <p>☆グループでリズムを共有することができるようにするために、まず「声」で演奏する活動を設定する。</p> <p>◆リズムの重なりや音楽の縦と横の関係、反復を知覚・感受している。 【創一①】（演奏表現）</p>
3 本 時	<p>○様々な方法での音楽づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器や音の組合せ方を工夫してグループの作品をつくる。</li> <li>・作品の演奏手段を考える。</li> </ul> <p>☆声</p> <p>☆手拍子</p> <p>☆楽器（打楽器・木琴）</p>	<p>☆前時につくったリズムパターンを参考にしながら、グループの作品を仕上げ、楽器や音の組合せを工夫するよう助言する。</p> <p>☆音楽の縦と横の関係がどのようになっているかを確認するために、聴き手を順番に担当しながら活動する場を設定する。</p> <p>◆どのような作品にするかについて自分の考えや願い、意図を持ち、リズムの組合せをいろいろと試している。</p>

		【創一②】（行動観察・学習カード）
<p>&lt;ねらい&gt;音楽表現を通してリズムが反復しながら重なることによって生まれる音楽の縦と横の関係や、そのことによるよさや面白さについて紹介する。</p>		
4	<p>○インターロッキングの音楽の享受</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つくった作品を発表する。</li> <li>・それぞれのよさについて交流する。</li> </ul> <p>・インターロッキングの音楽のよさやおもしろさについて担任の先生の紹介する文を書く。</p>	<p>☆自分たちの発表に適切な表現の形態を考えるよう助言する。</p> <p>☆リズムの組合せ方と選択した音素材の違いによるよさや面白さについて交流する場を設定する。</p> <p>◆リズムの組合せを生かして、音楽をつくっている。</p> <p>【技一①】（演奏表現）</p>

## 7 本時の学習(3 / 4 時間)

(1)ねらい 楽器や音の組合せ方を工夫してグループの作品をつくる。

(2)学習の展開

○学習内容	・学習活動	☆教師の支援 ◆評価 【評価項目】(評価方法)
○前時の復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムを「声」で演奏する。</li> <li>① 2つのリズムをかみ合わせる。</li> <li>② 1つのリズムを1～2拍ずらして合わせる。</li> <li>・今日のめあてを確認する。</li> </ul>	<p>☆鑑賞した曲の仕組みを活用して表現する場を設定する。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           楽器や音の組合せを工夫して インターロッキングの音楽をつくろう。         </div>		
○様々な方法での音楽づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループのリズムを決める。</li> <li>・演奏する表現方法を選ぶ。</li> <li>・作品の演奏手段を考えて作品をつくる。</li> </ul> <p>☆声</p> <p>☆手拍子</p> <p>☆楽器（打楽器・木琴）</p>	<p>☆前時につくったリズムパターンを参考にしながら、グループの作品を仕上げ、反復する回数や楽器や音の組合せ方を工夫するよう助言する。</p> <p>☆演奏がどのようなになっているかを確認するために、聴き手を順番に担当しながら活動する場を設定する。</p> <p>◆リズムの組合せをいろいろと試し、どのような作品にするかについて自分の考えや願い、意図をもっている。</p> <p>【創一②】（行動観察・学習カード）</p> <p>☆グループの作品を電子黒板で掲示する。</p>
○中間発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間発表をする。</li> </ul>	
○振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価をする。</li> </ul>	

